

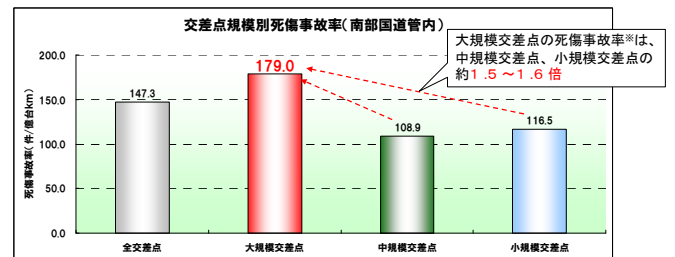
交差点ダイエット作戦

南部国道事務所 交通対策課 ◎岡本 哲次
○川中 留美

1. 目的

交通安全対策事業は、事故データや地元等からの意見に基づき「事故危険区間」を選定し、交通事故解消に向けて事業実施を進めている。主な事故対策としては、交差点改良（右折レーン設置を含む）、歩道整備、滑り止め舗装、防護柵設置、注意喚起などがある。

南部国道事務所管内の交差点は比較的大きな交差点が多く、交差点内や交差点付近での事故が多発している。交差点規模を大・中・小に分類した場合、大規模交差点での平均死傷事故率は中規模、小規模交差点を大きく上回っている。そこで大規模交差点のコンパクト化（ダイエット）を行うことで、交差点通過時のスピード抑制や右左折時の視距改良、歩行者の横断距離短縮などの効果があると考えられる。



大規模交差点：接続道路の車道幅員が13m以上
中規模交差点：接続道路の車道幅員が9.5m以上13m未満
小規模交差点：接続道路の車道幅員が9.5m未満
※H17～H22イタルデータ
※死傷事故率：1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数
※イタルダ区間のうち、道路形状が「交差点」(K)の区間を抽出
※事故が発生した交差点の平均値

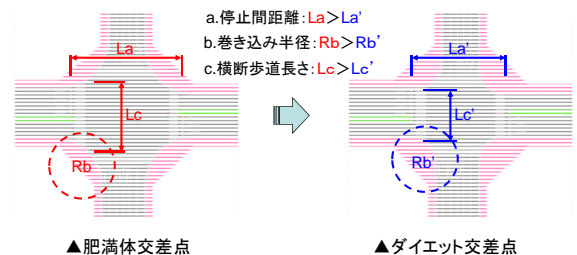
2. 内容

南部国道事務所管内における死傷事故率上位の交差点は大規模交差点が多数を占めている。大規模交差点では①停止線間距離が長い（追突、右折事故）②巻き込み半径が大きい（左折事故）③右折車が対向車を視認しづらい等の危険性がある。

交差点のコンパクト化（ダイエット）のメニュー及び効果として下記が考えられる。

- 停止線間距離を短くし、無理な交差点進入や進行・停止判断の迷いを抑制
- 巻き込み半径を小さくし、左折車の速度を抑制
- 横断歩道の長さを短くし、自転車・歩行者の安全性向上を図る

その他の効果として歩道空間が広がり、歩行者滞留の安全性・快適性が向上することも考えられる。



3. 今後の予定

今後は南部国道事務所管内における大規模交差点の事故状況や現地状況等を確認し、実施可能な交差点の抽出を行い、緊急性の高い優先対策箇所からモデルケースを選定する。事前調査、対策の検討を行ったうえで関係機関とも調整し実施に向けて進めていきたい。